

# 小中学生の放課後生活

—小・中学生対象のアンケート調査結果を中心に—

研究開発室 的場 康子

## —要旨—

- ① 放課後の過ごし方について、小学4年生から中学生にたずねた結果、小学4～6年生は「友達と遊ぶ」(82.6%)、「習い事に行く」(63.1%)、中学生は「クラブ活動に参加する」(71.6%)、「テレビを見たり音楽を聴く」(58.8%)が上位2項目である。
- ② 小中学生ともに、放課後、「屋外活動」をして過ごしている子のほうが、家の近くで遊ぶ友達が多いという傾向がうかがえる。
- ③ 交友関係も「過ごし方」と関連しており、小学生はクラスや学校、近所の友達と、中学生はクラスや学校に加えクラブ活動を通じた友達と遊んでいる。
- ④ 放課後の有意義な過ごし方として、小中学生の母親の多くは、通学路の安全確保のみならず、子どもが安心して遊ぶことができる公園や広場を増やすこと、クラブ活動への参加などを希望している。

## 1. はじめに

近年、子どもが巻き込まれる事件が相次いで報道される中で、子どもの安全をいかに守るかが大きな課題となっている。

実際に、「放課後子どもプラン」(2006年5月 文部科学省と厚生労働省による事業連携)や「子ども安全・安心加速化プラン」(2006年6月 犯罪対策閣僚会議・青少年育成推進本部合同会議了承)等において、子どもが安心して安全に遊べる場所の確保のための取り組みや、地域の防犯活動が推進されつつある。

このような中、本稿では小中学生の放課後の過ごし方に焦点を当て、小中学生自身や小中学生を持つ親を対象に実施したアンケート調査結果から、小中学生の放課後の過ごし方の実態と意識を明らかにする。すなわち、小中学生自身がどのように放課後を過ごしているのか、また過ごしたいと思っているのか、さらにはどのように友人関係を築いているのか等を示す。そして、保護者の意識を踏まえ、小中学生が放課後生活を有意義に過ごすためにはどのようなことが必要かを考える。

## 2. 調査概要

本調査は、2007年3月に当研究所生活調査モニターのうち中学3年生までの子どもをもつ父母1,078組、およびその子どものうち小学4年生から中学3年生の567人（当該子が複数いる場合は最年長子のみ対象）に対して実施された。

調査概要は図表1の通りである。

図表1 調査概要

調査名	子どもの生活に関するアンケート調査		
調査対象	当研究所生活調査モニターのうち中学3年生までの子どもをもつ父母1,078組、およびその子どものうち小学4年生～中学3年生のもの（当該子が複数いる場合は最年長子のみ対象）567人		
有効回収数(率)	父親 927人 (86.0%)	母親 930人 (86.3%)	子ども 548人 (96.6%)
調査方法	郵送調査		
調査時期	2007年3月		

## 3. 小中学生の放課後の過ごし方の実態と意識

小中学生は、どのように放課後を過ごしているのだろうか。まず、小学4～6年生および中学生が回答したサンプルにより、小中学生の放課後生活の実態と意識をみてみよう。なお、本稿における「小学生」とは、アンケート調査の対象となった「小学4年生から6年生」を示している。

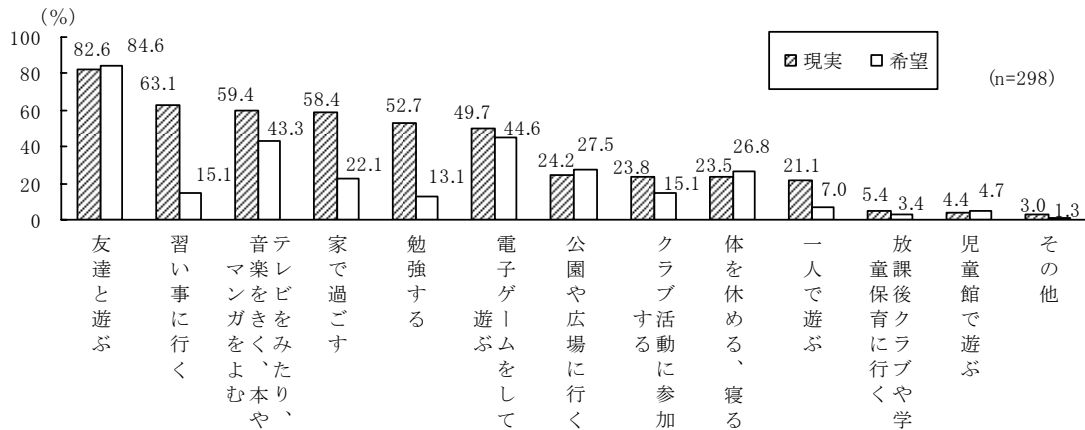
### (1) 小学生の放課後の過ごし方の現実と希望

まず、小学4～6年生の実際の過ごし方についての回答結果をみると、「友達と遊ぶ」に次いで、「習い事に行く」への回答が上位2位を占めている（図表2）。以下、「テレビをみたり、音楽をきく、本やマンガをよむ」「家で過ごす」「勉強する」「電子ゲームをして遊ぶ（テレビゲームや携帯用のゲーム等）」と続き、屋内で遊んだり、過ごすという割合が約半数となっている。その後に「公園や広場に行く」といった屋外で遊ぶという項目が続いている。他方、希望する過ごし方をたずねた結果をみると、上位2位は「友達と遊ぶ」「電子ゲームをして遊ぶ」となっている。

次に、現実と希望の回答割合のギャップが特に大きい項目をみると、「習い事に行く」「勉強する」といった項目であり、希望よりも現実の回答割合のほうが約40ポイント高い。これらの項目は、多くの小学生にとって、あまり希望しないが現実には行っている「過ごし方」であるといえる。反対に、現実よりも希望のほうが高い項目（「公園や広場に行く」や「体を休める、寝る」等）もあるが、約3ポイント以下の差である。

ある程度、希望する過ごし方を実際に行っているもの、他方、希望しない過ごし方を余儀なくされているという側面も浮き彫りになっている。

図表2 小学4～6年生の放課後の過ごし方の現実と希望<複数回答>

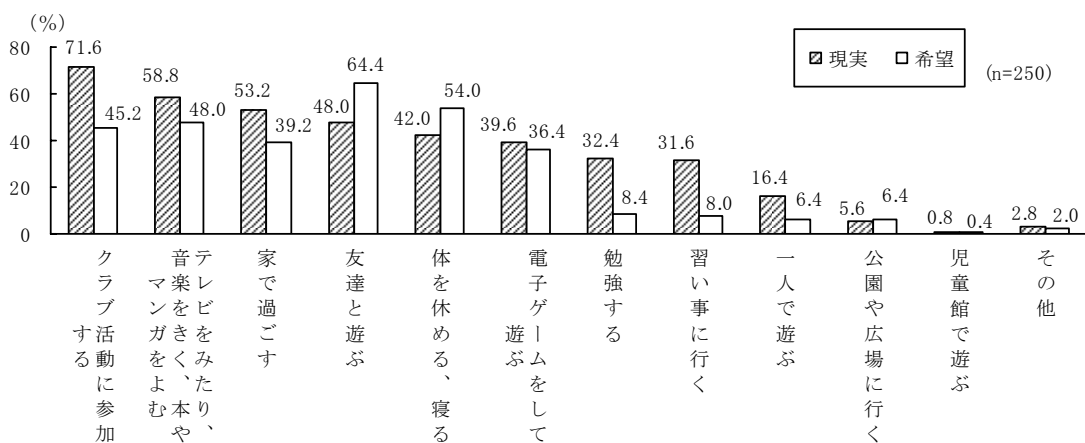


注：小学4～6年生の子どもの回答結果

## (2) 中学生の放課後の過ごし方の現実と希望

中学生の回答割合をみると、現実の過ごし方は、「クラブ活動に参加する」が7割以上を占め、小学生で高い割合を示した「友達と遊ぶ」は5割以下、「電子ゲームをして遊ぶ」は4割以下、「習い事に行く」は3割程度となっている（図表3）。希望する過ごし方としては、「友達と遊ぶ」「体を休める、寝る」が上位を占めている。

図表3 中学生の放課後の過ごし方の現実と希望<複数回答>



注1：中学生の子どもの回答結果

注2：「放課後クラブや学童保育に行く」の項目に対しては、「現実」「希望」ともに回答がゼロであった。

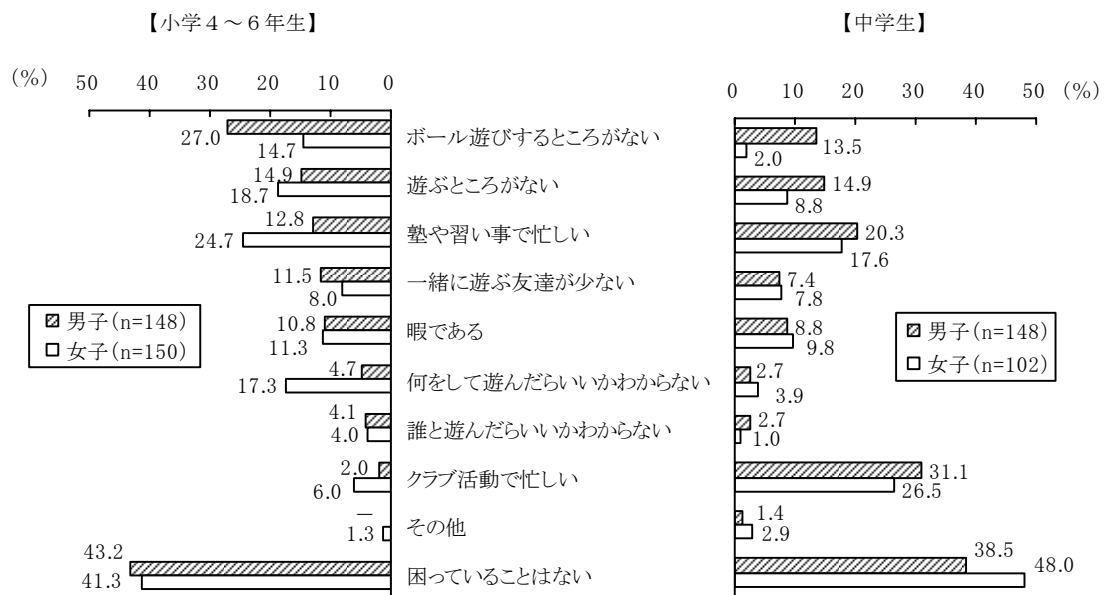
現実と希望とのギャップが特に大きい項目をみると、「クラブ活動に参加する」「勉強する」「習い事に行く」といった項目であり、希望よりも現実のほうが20ポイント以上高い。反対に、現実よりも希望のほうが高い割合を示した項目は「友達と遊ぶ」「体を休める、寝る」といった項目であり、12ポイント以上開いている。中学生の場合、放課後、本当はもっと友達と遊んだり、体を休めたいと思っけていても、クラブ活動や勉強、習い事に忙しいという様子がうかがえる。

### (3) 小中学生が放課後、困っていること

放課後の生活において、困っていることをたずねた結果を、小中学生それぞれについて性別にみたものが図表4である。

「困っていることはない」への回答が、小中学生の男女ともに約4割を占めているが、それ以外の「困っている内容」を示した項目については、小中学生あるいは性別によって回答傾向が異なる。すなわち、小学生の男子は「ボール遊びをすることがない」、女子は「塾や習い事で忙しい」への項目が第1位となっている。また、小学生女子の第2位は「遊ぶところがない」、第3位は「何をして遊んでいいかわからない」であり、いずれも約2割の回答割合である。中学生をみると、男女ともに「クラブ活動で忙しい」と「塾や習い事で忙しい」が上位2位までを占めている。

図表4 小中学生の放課後、困っていること(性別)＜複数回答＞



注：小学4年生～中学生の子どもの回答結果

## 4. 小中学生の放課後の過ごし方と友達つきあいとの関係

### (1) 小学生の放課後の過ごし方と友達つきあいとの関係

次に、小中学生それぞれについて、その放課後の過ごし方と友達つきあいとの関係についてみてみよう。

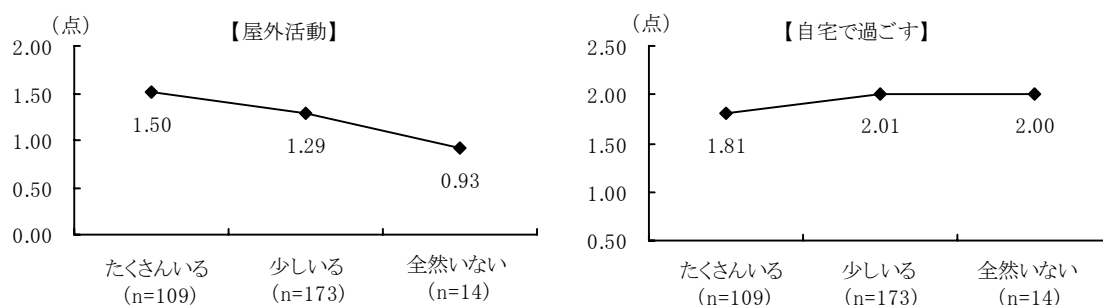
まず、図表2に示した放課後の過ごし方に関する項目の中から、相関係数を参考として、「屋外活動」に関連する項目と「自宅で過ごす」ことに関連する項目に注目し、それぞれ「屋外活動」群と「自宅で過ごす」群とした。すなわち、「屋外活動」群は、「公園や広場に行く」「友達と遊ぶ」「クラブ活動に参加する」「児童館で遊ぶ」を選択した群であり、「自宅で過ごす」群は、「家で過ごす」「テレビをみたり、音楽をきく、本やマンガをよむ」「勉強する」「体を休める、寝る」を選択した群である（各群を構成する項目は互いに相関係数が高い傾向がある）。

このような「屋外活動」群と「自宅で過ごす」群それぞれを構成している項目に対して、回答者が選択した数を得点化して、「放課後、家の近くで遊ぶ友達」の数との関連をみた。すなわち、「放課後、家の近くで遊ぶ友達」が「たくさんいる」「少しいる」「全然いない」の回答者ごとに、「屋外活動」群と「自宅で過ごす」群の得点を比較した。

その結果、「屋外活動」群の得点分布（最小値0点、最大値4点、平均値1.35）をみると、「放課後、家の近くで遊ぶ友達」が「全然いない」の回答者よりも「たくさんいる」の回答者のほうが得点が高い（図表5）。反対に、「自宅で過ごす」群の得点分布（最小値0点、最大値4点、平均値1.94）は、「たくさんいる」の回答者よりも「少しいる」や「全然いない」の回答者のほうが高い。

概して、小学生の場合、放課後、屋外活動をして過ごしている子のほうが、家の近くで遊ぶ友達が多いという傾向がうかがえる。

図表5 「家の近くで遊ぶ友達」の有無別にみた放課後の過ごし方のパターン(小学4～6年生)



注：小学4～6年生の子どもの回答結果

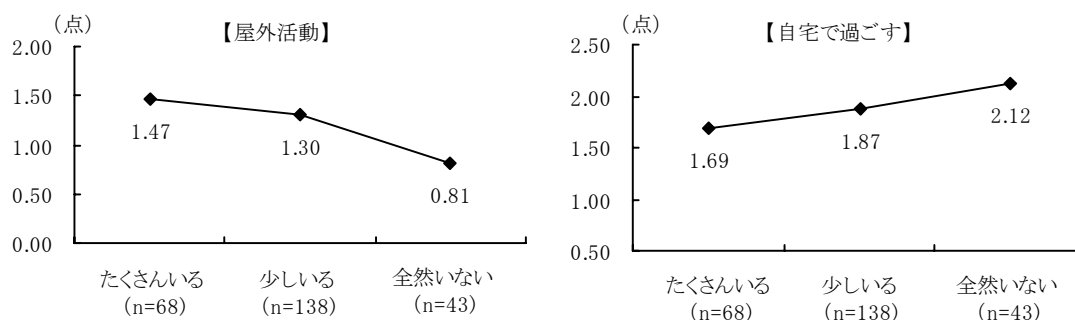
## (2) 中学生の放課後の過ごし方と友達づきあいとの関係

中学生についても、小学生のケースと同様に、「屋外活動」群と「自宅で過ごす」群それぞれを構成している項目に対し、回答者が選択している項目数を得点化して、「放課後、家の近くで遊ぶ友達」の数との関連をみた。

その結果、「屋外活動」群の得点分布（最小値0点、最大値4点、平均値1.26）をみると、放課後、家の近くで遊ぶ友達が「全然いない」の回答者よりも「たくさんいる」の回答者のほうが得点が高い（図表6）。反対に、「自宅で過ごす」群の得点分布（最小値0点、最大値4点、平均値1.86）は、「たくさんいる」の回答者よりも「全然いない」の回答者のほうが高い。

概して、小学生と同様に、中学生の場合も、放課後、屋外活動をして過ごしている子のほうが、家の近くで遊ぶ友達が多いという傾向がうかがえる。

図表6 「家の近くで遊ぶ友達」の有無別にみた放課後の過ごし方のパターン(中学生)



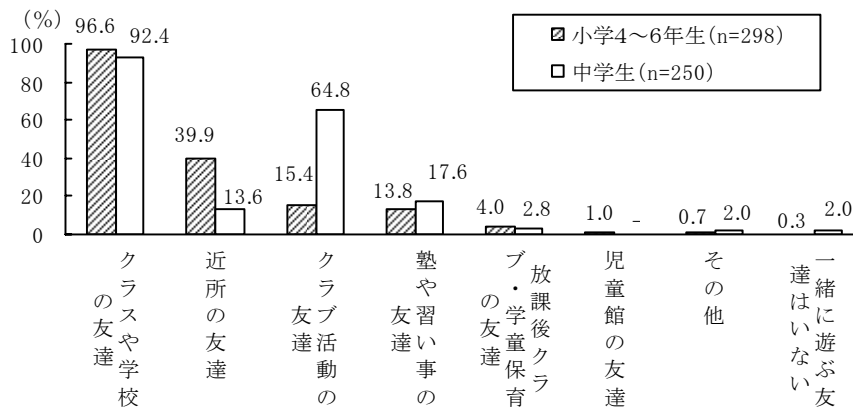
注：中学生の子どもの回答結果

## 5. 普段一緒に遊ぶ友達

普段一緒に遊ぶ友達はどのような友達であるかをたずねたところ、小中学生ともに「クラスや学校の友達」の回答割合が第1位である（図表7）。2位以下の回答割合の順序は異なり、小学生の第2位は「近所の友達」、中学生の第2位は「クラブ活動の友達」となっている。

前述の「放課後の過ごし方」において、小学生は「友達と遊ぶ」、中学生は「クラブ活動に参加する」の回答割合が高いという結果が示されたが、交友関係はこれと関連しており、概ね、小学生はクラスや学校に加え、近所の友達と、中学生はクラスや学校に加え、クラブ活動を通じた友達と遊んでいるようだ。

図表7 普段一緒に遊ぶ友達(就学状況別)＜複数回答＞

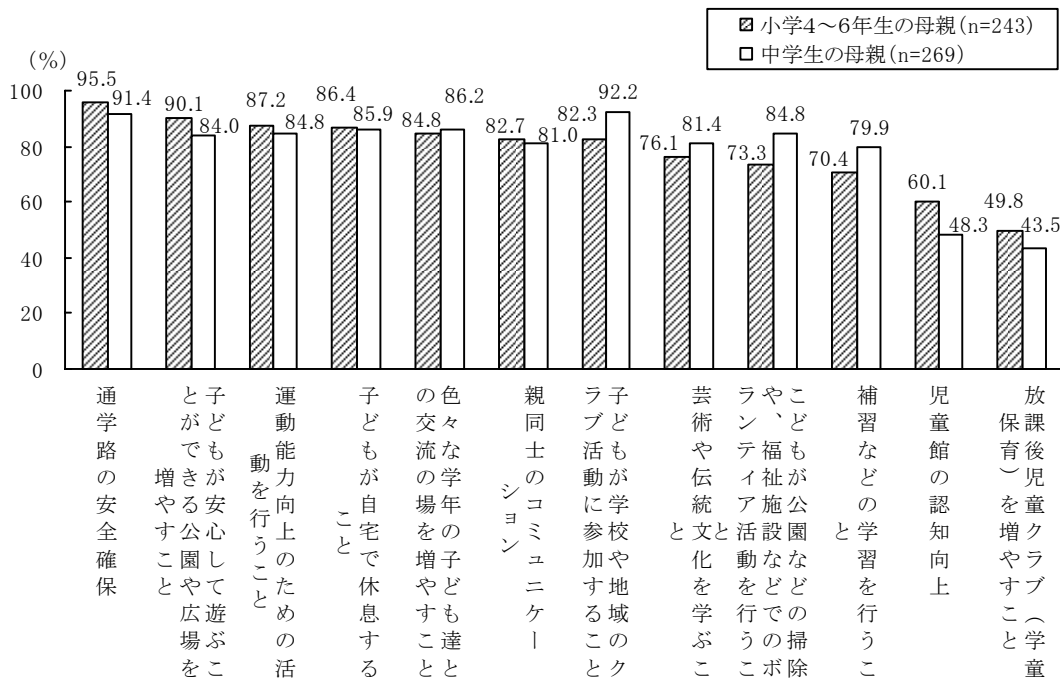


注：小学4年生～中学生の子どもの回答結果

## 6. 子どもの放課後生活の有意義な過ごし方

子どもが放課後の生活を有意義に過ごすために、どのようなことが必要であると思うかを母親にたずねた結果を、子どもの就学状況別にみたものが図表8である。

図表8 子どもが放課後を有意義に過ごすために必要なこと(子の就学状況別)



注1：小学4年生～中学生の子どもを持つ母親の回答結果

注2：数字は、各項目に対して、「とても必要である」と「まあ必要である」の合計値

子どもの就学状況による回答傾向の違いはあまりなく、「通学路の安全確保」「子どもが安心して遊ぶことができる公園や広場を増やすこと」「運動能力向上のための活動を行うこと」等が上位を占めている。

先に、中学生の多くはクラブ活動に参加しているという実態を示したが、中学生の母親の「子どもが学校や地域のクラブ活動に参加すること」への回答割合も9割以上を占めており、そのような過ごし方に親も肯定的であるようだ。他方、小学生が参加できるクラブ活動が少ないためか、実態としては、小学生のクラブ活動への参加はあまり多くはない。しかしながら、小学生の親の多くも、クラブ活動への参加を必要としていることが示されている。今後、小学生のクラブ活動のあり方について、多くの子どもの参加機会を増やす方向で再考の余地があるものと思われる。

## 7. まとめ

以上、小中学生およびその父母の回答をもとに、放課後の過ごし方についての実態と意識をみてきた。小中学生は、本当は遊んだり、ゆっくり休みたいと思っているが、実際には、多くの小学生は習い事、中学生はクラブ活動で忙しくしている。

なぜ、このように小中学生は、習い事やクラブ活動で放課後を忙しく過ごしているのか。その背景には、「ボール遊びをするところがない」や「遊ぶところがない」というように、遊ぶ場所が限定されてしまっており、思うように遊べないことも影響していると思われる。実際に、地域によっては「ボール遊び禁止」の公園が増えており、子どもがボールを追いかけて遊べない状況が余儀なくされている。

このようなことから、子どもが放課後生活を有意義に過ごすためには、通学路の安全確保のみならず、子どもが安心して遊ぶことができる公園や広場を増やすこと等が求められる。また、小学生のクラブ活動参加は現状では少ないようであるが、小学生の親の多くは、クラブ活動への参加を希望している。小学生のクラブ活動の参加機会を増やすことによって、特に放課後生活をもてあましているように見受けられた小学生女子をはじめとして、子どもたちの友達づくりにも寄与すると思われる。

学校のみならず、家庭や地域等で過ごす放課後生活も、子どもの成長にとっては重要なものである。次世代育成支援として、子どもが放課後、たくさんの友達とのびのびと遊ぶことができるような環境整備の充実も必要である。

(研究開発室 主任研究員)